

令和 7 年度（2025 年度）

京都市立芸術大学 音楽学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	7
ピアノ専攻	8
弦楽専攻	9
管・打楽専攻	12
声楽専攻	15
音楽学専攻	17

第二次試験（作曲、指揮、弦楽、管・打楽、声楽専攻）

音楽通論	22
聴音書取（旋律聴音）	31
聴音書取（和声聴音）	31
新曲視唱	32
コールユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	32
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	33
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	34

※副科ピアノ演奏は事前の動画提出による映像審査

第二次試験（音楽学専攻）

口頭試問	36
------	----

令和 7 年度（2025 年度）

音楽学部入学試験 第一次試験（音楽学専攻以外の専攻）

作曲専攻

（第 1 日）1. 和声法（試験時間各 2 時間 30 分）

A バ ス課題：与えられたバスに和声をつけ、4 声体とすること。

B ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4 声体とすること。

両課題とも記譜は次の a または b のいずれかを選択すること。

a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施記譜例（a、b による記譜）は別記のとおり。

2. 作品提出

自作品を 1 曲以上、試験当日に提出すること。なお、提出された作品は返却しないので、コピー譜を提出すること。

（第 2 日）3. 二声対位法（試験時間 2 時間）

与えられた全音符の定旋律に対旋律をつくること。対旋律は、2 分音符、4 分音符、8 分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の（1）～（6）の 6 通りが必要である。

（1）：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。

（2）：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。

（3）：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。

（4）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。

（5）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。

（6）：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜は次の a または b のいずれかを選択すること。

a ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

b ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

実施例（b による記譜）は別記のとおり。

4. 作曲（試験時間 4 時間 30 分）

与えられた素材により器楽曲を作曲すること。

（第 3 日）5. 面接

各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻（第 1 日）和声法の実施例

*課題 {過去の出題（ソプラノ課題）より冒頭 2 小節}



*記譜 a による実施例

Andante (♩=72ca.)

*記譜 b による実施例

Andante (♩=72 ca.)

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

*記譜 b による実施例

定旋律

実施例

1

2

3

4

5

6

令和 7 年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（バス課題）

- 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
- 記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。
- a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
- b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Allegro moderato (♩ = 108)

6

11

(試験時間 2 時間 30 分)

令和 7 年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（ソプラノ課題）

■ 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体になさい。

記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Moderato (♩ = 84)

7

13

18

(試験時間 2 時間 30 分)

第一次試験

令和7年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験
作曲専攻・第二日:対位法

■次の全音符の定旋律に、対旋律を一つ作り、二声体としなさい。

対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢(シンコペーション)を含む、いわゆる自由(華麗)対位法によるものとする。

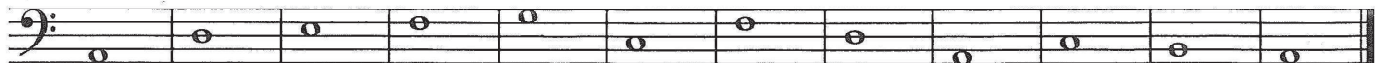
解答は、次の1-6の6通りが必要である。

- 1:定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2:定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3:定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4:定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5:定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6:定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜に移調してもよい。

記譜は、a.またはb.のいずれかを選択すること。

- a.ソプラノ、アルト、テノール、へ音記号による。ト音記号は用いない。
- b.ト音記号とへ音記号の大譜表による。



(試験時間:2時間)

第一次試験

令和7年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第二口：作曲

■次の素材により、二人以上の奏者のための器楽曲を作曲しなさい。

リズムは任意とし、調性（無調も可）、拍子、テンポ、音域も自由とする。

また、各音に臨時記号を自由につけてもよい。同音反復も可とする。



編成については以下より二つ以上を選択するものとする。

同一楽器を用いてもよい。

- ・フルート
- ・オーボエ
- ・クラリネット
- ・ファゴット
- ・ホルン
- ・トランペット
- ・トロンボーン
- ・ヴァイオリン
- ・ヴィオラ
- ・チェロ
- ・コントラバス
- ・ピアノ

楽器編成には打楽器を含めることも可能である。

移調楽器に関しては、実音表記で書いてかまわないが、
その際には、楽譜の冒頭にその旨を記載すること。

(試験時間：4 時間 30 分)

指揮専攻

・和声法（試験時間 3 時間）

与えられたバスとソプラノの旋律に和声をつけ、4 声体とすること。

（記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。）

・実技試験

1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。（演奏は二台ピアノによる）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲 第 1 番 ハ長調 作品 21 より第 1 楽章、第 4 楽章

（イ）P. I. Tchaikovsky：弦楽のためのセレナーデ 作品 48 より第 2 楽章 ワルツ

上記、出版社は自由とする。

2 下記の楽曲による総譜視奏（スコアリーディング）

（ア）L. v. Beethoven：交響曲 第 7 番 イ長調 作品 92 より第 2 楽章

（イ）初見視奏（当日提示する管弦楽曲）

3 既に習得している楽器（ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちいずれか 1 つ）若しくは声楽を演奏すること。その場合、楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は、本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。マリンバについては、本学で用意する楽器を使用すること。

なお、声楽を除きすべて無伴奏とし、演奏曲目をインターネット出願登録時に入力すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。

※声楽選択者の伴奏用楽譜について

声楽を選択する場合、伴奏用楽譜を出願の際 1 曲につき 2 部ずつ提出すること。

・ 1 ページの大きさは A4 判とし、各ページが全開するよう横一連に綴じること。

・ 表紙には曲名、調、氏名を明記すること。（表紙の右上部分には何も書かないこと。）

・ 印刷した Web 入学志願票等の必要書類とともに封筒に入れ、出願期限までに「**簡易書留・速達**」で郵送すること。

4 面接を行う。

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 任意の作曲家による練習曲を2曲選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する1曲を決定する。

3 J. Haydn または W. A. Mozart または L. v. Beethoven の任意のソナタ1曲全楽章を選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する(1つの、あるいは複数の)楽章を決定する。

※注意 (1) いずれも暗譜演奏すること。

(2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。

(3) 拡張奏法や内部奏法を含む作品及び自作曲は除く。楽譜の入手が困難な作品については楽譜の提出を求める場合がある。

(4) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名をインターネット出願登録時に入力すること。

(5) 1について、7分以上12分程度までとする。

(6) 1について、変奏曲の抜粋は認めない。

(7) 2について、同じ作曲家による2曲を選択することも、異なる作曲家による2曲を選択することも可とする。

(8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意
- (1) 選択した曲目及び調名をインターネット出願登録時に入力すること。
 - (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
 - (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かをインターネット出願登録時に入力すること。
 - (4) 時間の都合上カットすることがある。

*ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただし Lalo のスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch: 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák: 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo: スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn: 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini: 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns: 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius: 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky: 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawski: 協奏曲 第1番 嬰ヘ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawski: 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5、6、7、8、9、10 ただし No.6~No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8、9、10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符=80以上、No.6~10 は8分音符=60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode: 24Caprices

J. Dont: Étüden und Capricen 作品35

N. Paganini: 24Caprices 作品1 (ただし 17番冒頭及び24番の繰り返しはすること。)

* ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz : 協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章 (ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。)

A. Hoffmeister : 協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章 (ヘンレ版を使用すること。カデンツァを除く。)

M. Reger : Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

(第2日) 1 C. Flesch : Scale System より No.5、6、7、8

ただし No.6、7、8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6、7、8 は8分音符単位 (16分音符2個分) で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli : 41 Caprices 作品22 より任意の1曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

* チェロ

(第1日) 任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章を演奏すること。

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot 版) を参照のうえ、ハ短調による下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは1弓8音♩=80以上)

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階 (スラーは1弓8音♩=80以上)

ハ短調の例

Do mineur
C moll
C minor



(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは1弓6音♩=60以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階 (スラーは自由♩=60以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階 (スラーは自由♩=60以上)

(f) 2オクターヴにわたる重音8度の音階 (スラーは自由♩=60以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J. Duport : Etudes より任意の1曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

* コントラバス

(第1日) 任意のソナタの第1楽章及び第2楽章または協奏曲の第1楽章を演奏すること。

(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。

2 Storch-Hrabe: 32 Studies for String Bass より 23番を演奏すること。

(International 版を使用すること。フィンガリング、ダイナミックスは自由とする。)

(a)



(b)



(c)



(d)



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第1日の暗譜演奏の指示のない課題曲の楽譜は各自持参すること（本学で楽譜は用意しない。）。
- (2) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること（繰り返しはしない。）。
- (3) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
- (4) 時間の都合上カットすることがある。

*フルート

- (第1日) J. Andersen : 24 Etudes for Flute op.21 より、第1番、第3番、第10番、第11番、第15番、第19番、第24番の中から当日指定する曲（版の指定なし）
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第1番 ト長調 K.313 (K6.285C) 第1楽章（カデンツァを除く。）

*オーボエ

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot 版または全音楽譜出版社) より第4番、第8番、第9番、第19番、第23番、第24番、第30番、第31番、第34番、第37番、第42番、第43番の中から当日指定する曲
- (第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg : C1 第1、第2楽章 (Breitkopf 版)

*クラリネット

- (第1日) 1 R. Eichler : Scales for Clarinet (KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC) の各調1・2番を範囲とし、当日指定する調を暗譜で演奏すること（レガート、スタッカートのいずれかの指示をします。）
- 2 C. Rose : 32 Etudes (Alphonse Leduc 版) より第7番、第8番、第11番、第13番、第18番、第20番、第23番、第26番、第29番、第32番の中から当日指定する曲
- (第2日) Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品26

*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品8第2巻より第1番から第15番までのの中から当日指定する曲（繰り返しなし、版の指定なし）
- (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章、第4楽章（繰り返しなし、版の指定なし）

*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc 版) より
- ①第7番、第17番、第29番、第31番、第43番の中から1曲（当日指定）
- ②第4番、第8番、第26番、第36番、第48番の中から1曲（当日指定）
- (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bemol (Alphonse Leduc 版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer 版、繰り返しなし) より第7番、第12番、第13番、第15番、第16番、第19番、第22番、第23番、第24番、第25番、第27番、第28番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV.495 より第1楽章（カデンツァなし）及び第3楽章（第99小節目まで）

*トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第 19 番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)
- 2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より第 6 番～第 24 番の中から当日指定する曲
- なお、曲を演奏する前に、それぞれの調の音階をリピートありで一息で演奏する事。最初はテヌートで、リピート後は最後の分散和音までスタッカートで一息で演奏すること。
- (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

*トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第 10 番、第 13 番、第 15 番、第 16 番、第 17 番、第 18 番、第 19 番、第 20 番、第 21 番、第 25 番、第 27 番、第 36 番、第 38 番、第 39 番、第 40 番、第 42 番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし)
- (第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第 1 楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第 11 番、第 17 番、第 20 番、第 21 番、第 25 番、第 26 番、第 32 番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし。第 17 番はオクターブ下で演奏すること)
- Ostrander : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer 版) より第 6 番、第 10 番、第 16 番の中から当日指定する曲
- (第2日) F. David : Konzertino 変ロ長調 第 1 楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*ユーフォニアム

- (第1日) 1 J. B. Arban : Fourteen Characteristic Studies より第 1 番、第 4 番、第 5 番、第 7 番の中から当日指定する曲 (Encore music publishers)
- 2 M. Bordogni : Complete Vocalises for Trombone より第 5 番～第 13 番の中から当日指定する曲 (Encore music publishers)
- (第2日) P. V. De la Nux : Solo de Concours pour Trombone et Piano (Leduc 版)、Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (Southern music company 版) (どちらの版でもよい)

*チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第 5 番、第 7 番、第 8 番、第 9 番、第 10 番、第 11 番、第 12 番、第 13 番、第 14 番、第 15 番の中から当日指定する曲
- 2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第 2 番～第 10 番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tuba (Elkan-Vogel 版) より第 1 楽章、第 2 楽章、第 4 楽章

*打楽器

打楽器 (A)、打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A、B いずれを選択したか、また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏、座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

打楽器 (A)

- (第 1 日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より、第 6 番、第 15 番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より、第 25 番、第 28 番、第 29 番、第 30 番の中から当日指定する曲
(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し、本学で用意するマリンバで演奏すること。
版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
J. S. Bach : ソナタ 第 1 番 ト短調 BWV1001
J. S. Bach : パルティータ 第 1 番 ロ短調 BWV1002
J. S. Bach : ソナタ 第 2 番 イ短調 BWV1003
J. S. Bach : パルティータ 第 2 番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona
J. S. Bach : ソナタ 第 3 番 ハ長調 BWV1005
J. S. Bach : パルティータ 第 3 番 ホ長調 BWV1006

(第 2 日) 第 1 日目の (ウ) に同じ

打楽器 (B)

- (第 1 日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より、第 6 番、第 15 番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より、第 25 番、第 28 番、第 29 番、第 30 番の中から当日指定する曲
(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
(エ) J. S. Bach : パルティータ 第 3 番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)

(第 2 日) 第 1 日目の (ウ) に同じ

声楽専攻

(第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。

ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。

(第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。

- | | | |
|------|---------------|---|
| (1) | G.M.Bononcini | Deh, più a me non v'ascondete |
| (2) | A.Scarlatti | Sento nel core |
| (3) | F.Gasparini | Lasciar d'amarti |
| (4) | G.B.Bononcini | Per la gloria d'adorarvi |
| (5) | G.Paisiello | Nel cor più non mi sento |
| (6) | A.F.Tenaglia | Begli occhi, merce' |
| (7) | M.A.Cesti | Intorno all'idol mio |
| (8) | A.Vivaldi | Vieni, Vieni, o mio diletto |
| (9) | W.A.Mozart | Ridente la calma |
| (10) | V.Bellini | Il fervido desiderio |
| (11) | S.Donaudy | Spirate pur, spirate |
| (12) | F.Schubert | An die Musik Op.88-4 |
| (13) | F.Mendelssohn | Auf Flügeln des Gesanges Op.34-2（第1節と第3節のみ） |
| (14) | 信時 潔 | 行々子（「沙羅」より） |
| (15) | 山田耕筰 | かやの木山の |

- ※注意
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
 - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
 - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
 - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性をインターネット出願登録時に入力すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
 - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
 - (6) 伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

*伴奏用楽譜について

自由曲及び課題曲のためのピアノ伴奏用楽譜は、各自選択した調性の楽譜を、印刷したWeb入学志願票等の必要書類とともに1曲につき2部ずつ出願期限までに「簡易書留・速達」で郵送すること。（自由曲2部、課題曲8部、計10部）

【注意事項】

- (1) 1ページの大きさは、A4判（297mm×210mm）にすること。
- (2) 各ページが全開するよう横一連に綴じること。その際、テーピングにはマスキングテープを使用すること（セロテープは不可）。
- (3) 表紙に第1日・第2日の別、曲名、調性、氏名を明記すること。

(3)の記入例

伴奏用楽譜表紙

第2日 課題曲
G. Giordani
Caro mio ben（〇〇調）
芸大 和音

- (4) 台紙として、厚紙などの別紙は貼り付けないこと。また、表紙の右上部分には何も書かないこと。
- (5) 楽譜の曲名左下に「メトロノーム記号」を記入し、速度を指定すること（自由曲・課題曲共通）。

(5)の記入例

楽譜 1 ページ目

The image shows the first page of a musical score for the song "L'ultima canzone" by Francesco Paolo Tosti. The score is written for voice and piano. The tempo marking is "♩ = 120". The key signature is one flat (B-flat). The score includes the title "L'ultima canzone" and the composer's name "Francesco Paolo Tosti". The lyrics are in Italian. The score is written on a single page.